飛翔

第4号
平成24年8月1日発行
発行
東大津高校 飛翔会
印刷
㈲シンコー印刷

『第4号飛翔会報発刊によせて』

飛翔会副会長
2期生 安見 成人

東大津高校卒業生のみなさん、お元気ですか？

平素は本校同窓会（飛翔会）の活動・運営に対してご理解とご協力を賜りまして誠に有難うございます。

今年も卒業生の皆様に現在の母校の様子や卒業生の声（ご活躍）を届けられるよう同窓会報「飛翔」4号を発刊することができましたことを関係者の皆様にお礼申しあげます。

本校の校風は私のような初期の卒業生が在学していたころと寸分の違いもなく「真面目」だとみんなが声をそろえて言われます。今の在校生たちも学業が厳しい中、大半がクラブ活動に参加し充実した学園生活をすごされています。

本校の歴史は38年になりましたがどの卒業生も同じ気持ちで学校に通っており、卒業されて母校を思い出す内容は今も昔も何も変わっていないんです。私は卒業後も同窓会の運営を手伝っておりますので各期生の卒業生の方々と接する機会が多いのですが、卒業生の方が選手としてオリンピックに出場されたり、市会議員がいたり、アニメの声優さんがいたり、漫画家がいたり、吉本興業に入っている方がいたり、本当に様々な分野で、場所で活躍されている同窓生の話を聞くと自分のことのように嬉しく思います。

我が校では4年に1回（オリンピックの年）全卒業生を対象に同窓会（飛翔会）を開催しておりますが、今年は場所を我が母校（東大津高校）に移し「東大津高校だよ、全員集合！」のスローガンのもと開催されます。懐かしい顔を見るのも楽しみですが、ここから育まれるかもしれない違う世代の方との友情をみなさんが財産として作れたらどんなに素晴らしいことかと思うとワクワクしてしまいます。卒業生には「タテ」のつながりはありません。卒業生みんなが「ヨコ」のつながりで仲良くなりたいと思いますので皆様のご参加をお待ちしております。

同窓会会報によせて

東大津高校 校長 辻 寿朗

盛夏の候、同窓会会員の皆様には益々御健勝にて御活躍のことと存じます。平素は本校教育活動の充実発展のため御支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。昭和50年に開校しました本校は今年で学校創立38年目を迎え、この間約1万5千名余りの卒業生を輩出するに至り、名実ともに歴史と伝統ある学校に発展してまいりました。これもひとえに、会員の皆様のお力添えの賜物と心より感謝いたします。

さて、学習指導要領が改訂され、平成25年度より学年進行で実施されることとなりました。今回の改訂のポイントは、教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること、そして、道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成することです。教育内容の主な改善事項として、言語活動の充実、理数教育の充実、外国語教育の充実、道徳教育の充実等が唱われています。今回の改訂に伴い本校では、育成すべき生徒の姿を思い描き協議を重ね、新教育課程を編成してまいりました。

生徒の志望や保護者の期待、そして近年の国公立大学や有名私大への進学希望の増加を考慮し、現行の週30時間の教科時間数を週31時間にするとともに、ホームルームと総合的な学習の時間を確保し、合計週33時間の教育課程を実施することといたしました。また、単に授業時間数を増やすだけでなく、授業改善も積極的に行い、生徒の進路実現に向けて全教職員が一丸となって取り組んで参りたいと考えています。また、平成23年度からは、県教育委員会の事業「確かな自己実現支援事業」の実施校にも指定され、従来から実施していました立命館大学に加え、滋賀大学、滋賀医科大学、滋賀県立大学とも高大連携を実施し、上級学校への進学を希望する生徒の、学習意欲の更なる向上を図るべく取り組んでいます。さらに、学習面だけでなく、部活動や学校行事にも力を入れ、3Fの精神を育成するとともに文武両道の教育方針を推進することにより、自ら考え、自ら判断して行動できる個性豊かな人間の育成に取り組んでいるところです。

今後とも、同窓会と本校の益々の発展のため、今まで以上のお力添えをお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

「耐寒遠足南コース」リニューアル

堀井 善之（大津清陵高等学校）

耐寒遠足は昭和50年の学校創立以来、毎年実施されている伝統行事です。第1回耐寒遠足は昭和51年1月に大津市石山の東レ滋賀事業所付近を出発して、南郷、田上を経て現在の地（びわこ文化ゾーン）に建築中であった本校校舎を見学し、瀬田駅をゴールとするコースで、降りしきる雪の中、実施されました。昼食は田上キャンプ場でとり、その際、PTAから豚汁がふるまわれましたが、それは現在まで引き継がれ耐寒遠足の名物となっています。それ以降、変遷を重ねながら最近では琵琶湖大橋をわたって湖周道路を南下して学校に向かう北コースと岩間寺に登り宇治に降りて大石、田上を経て学校をゴールとする南コースで行われてきました。

私は、自分が住んでいる地域を通り、景色も変化に富んだ南コースに愛着を感じていました。しかし、交通量の増加などで危険な箇所があり、担当の先生方のご尽力もあり、新南コースが設定され、平成24年2月11日にリニューアルされたコースで第37回耐寒遠足が実施されました。皇子が丘体育館を出発し、琵琶湖岸沿いににおの浜の県立体育館付近では本校創立の地を右に見て歩き、瀬田川沿いを南下し、南郷公園で昼食（豚汁！）、そして南郷洗堰をわたり、瀬田川沿いに北上して学校に向かうというコースです。

私は新コースでの耐寒遠足実施を前にして東大津高校ホームページに写真でたどるコース説明を掲載しようと全コースを前半は徒歩、後半は自動車で巡って写真を撮りました。現在もホームページに掲載されていますのでご覧いただければ幸いです。

平成23年度まで本校に在職し、現在大津清陵高等学校で勤務されておられます。